

第16回新生匠瑳戦略会議 会議録（概要版）

開催日時：平成24年6月14日（木）

午後7時00分～9時00分

開催場所：八日市場ドーム選手控室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃、渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、越川八代枝、橋場永尚

（一般公募者）岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（12人／名簿順）

欠席委員：（団体推薦者）安藤建子、鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一

（3人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）小川課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

【 議 事 】

（1）提案書（中間報告）について

- ・前回から新たに中間報告に加えた部分は、第5章の「補論」である。前回の会議で、市民病院の老朽化の問題が話題として出され、状況を伺っているうちに中間報告で取り上げた方がいいのではないかと感じた。一方で、具体案を出すことに慎重論も出された。事務局から具体論が欲しいという話もあり、それらを総合的に検討した結果、提案というかたちはとれないので、補論というかたちで最後の部分に追加した。
- ・現在、市民病院のあり方検討委員会で、耐震問題を取り上げているが、建物はすでに30年近く経過しているので、まず耐震工事ができるのかどうかという問題がある。たとえ耐震工事ができたとしても、もう4～5年のうちに建物自体もたなくなってしまうと思われる。また、サイズの的に転換を図ろうとしても、部屋のサイズが今の医療法から外れているので、やろうと思ってもできない。会議の流れとしては、新築も止むを得ないのではないかと、という流れになりつつあるが、最終的には財政的な問題もあるので、市で判断することになる。よって、中間報告の補論と合致する方向で話は進んでいる。
- ・市民病院をサポートする仕組みとして、病院ボランティアについて書いたが、それ以前の問題として、新築までもっていくための具体的な市民活動（例：まちづくり

元気隊などがどのような活動をするのか)に触れていない。そこに戦略会議で積み上げてきた中間支援機能などをどのように組み込んでいったらいいのか、また、補論として市民病院のことを書くこと自体の賛否について、意見を伺いたい。

- ・循環バスも全線通っているので、駅前に市民病院があればかなり便利だと思う。また、内科や外科などの複数の病院が集まっていることから、市民病院が核となつてうまく連携できるのではないかと。
- ・駅前だと駐車場の問題がある。外来用の駐車場だけであれば何とかなるかもしれないが、問題は職員用の駐車場をどうやって確保するかである。
- ・どのくらいの規模の建物を建てるかによって、土地に関する用途地域の見直しも必要である。病院のことも含めて、中心市街地のマスタープランを作るべきだと思う。
- ・市民病院が目指している病院のあり方は、総合病院ではない。旭中央病院のミニチュアを造ったところでどうにもならない。
- ・建て替える場合に、同じ場所で建て替えるのか、それとも移転して建て替えるのかという問題は非常に大きい。
- ・現在の場所で建て替える場合には、埋蔵文化財の調査にかなりの時間とお金がかかる。大事なことだとは思いますが、まずは病院を建てるという目的を重視する必要があると思う。
- ・市民病院で一番問題になっているのは医師や看護師不足で、それに対する回答が出ない段階で、新築計画を進めていくのはかなりリスクがあると思う。
- ・補論を載せることに対して躊躇する理由の一つは、あり方検討委員会のメンバーの立場を考えると、補論とはいえほぼ提案に思えるこの内容を盛り込むことが大丈夫なのかどうか心配である。もう一つは、この補論に対して市が求められるものは、なぜ市民病院なのかということに対する論理的な説明である。その説明ができない上に、本論で具体論には踏み込まないということも明記しているので、J T跡地に市民病院という考え方は無理があるのではないかと。
- ・市民病院の移転、新築という考え方は、具体策ではなく思考モデルというとらえ方をしてはどうか。具体策としては、中間支援機能や中心市街地マスタープランの展開など、まさに戦略会議で議論したような内容をもってあげればよいのである。同様に、飯高地区についても、特別支援学校が来たから議論は終わりではなく、特別支援学校を開かれた学校、あるいは生物多様性を活かした学校として、新たに前向きにとらえたとしたらどういう展開が考えられるのか、そういうふうに物事をとらえていくことが大事である。
- ・いくつかの案から選択するとき、論理的な説明が必要ない場面というのは、マニ

フェストに掲げている場合であるが、病院に対する熱意が高まっていないがゆえに、相変わらず他人ごとであるという状況の中で病院を取り上げていくには、なぜこれを選んだのかという論理的な説明を必要とする。

- 本論からの流れで見ていくと、基本的考え方のフレームワークは重要だと思うが、これだけで行動を起こせるかという点と難しい。
- 事務局から「花がない」と言われているから考えているということに無理が生じていて、それはまさしく他人ごとである。花より、土、肥料、水、光などが大事なのであって、花を先に持ってきたとしても結局枯れてしまうということを本論で言っている。
- 光や土、水や肥料が基盤だとしたら、花は読者にとってわかりやすいものだが、光や土などはわかりにくく、読者にわかるように噛み砕かなければならない。
- 地域づくりの仕組みをしっかりと作って、市民、政治、行政が考える素地を持っておくべきである。市にとって良い提案がなされたときに、飛びつけるように準備しておき、それが出てこない限りは、軽率に具体的な検討に入るべきではないということをお話しておく必要がある。
- 地元の人には、地域づくりの仕組みや考え方を知らないがゆえに、現在の状況に至っているが、戦略会議での議論が進んでいるのを感じることができれば、こうすればいい、ああすればいいという意見が出てくると思う。
- 仕組みがあるからこそ、具体的に動きが出てくるのである。単純な仕組みでも、それがきっかけで実際に動きが起こっている。しかし、仕組みがあることを知らなければ、頭の中で思っているだけで動きは出てこない。
- 中間報告にも具体的な話があると読者は理解しやすい。ただ、リスクもあり、これが答えだと思ってしまうと、ただの猿真似になってしまう。
- 補論として市民病院を出したとしても、ハード面だけでなく、事前にソフト面での意識改革をきちんとできるようにしなければ、結局借金だけが残ることになりかねない。
- 明確に市民病院の建て替えを意思表示しにくいという状況が二つあり、一つには財政的に軽率なことが言えないということ。もう一つは、たくさん人が来ていないという現状である。
- まず市民病院ありきではなく、市民活動の先に見えるものとして、例えば病院建替えのために寄付をするなど、そういう活動を続けていけば、いずれ病院建替えも実現不可能ではないという感じにもっていければいいのではないか。
- あり方検討委員会としては、廃院も一つの方向性として出そうかという案も出てい

る。本当に匝瑳市として必要な病院だから何とか持ち続けるという確たる信念がなければ、逆に中途半端なことはしない方がいいのではないかと思っている。

- ・ 結論として、中間報告に補論を載せることとする。また、本日の議論を踏まえて中間報告の内容を修正することとする。

(2) その他

次回の会議日程は7月5日（木）とし、午後7時から八日市場ドームで行う。